



平成30年度

NO.1

出前講座報告書

平成30年6月6日 福島県庁西庁舎

地元への愛着と避難 ～地域の多様性と向き合う保健活動～

今年度はじめての出前講座は、ランチミーティングの形式で開催されました。みんなでお昼ご飯を持ち寄り、40分間、カジュアルな雰囲気での講義やグループワークを行いました。

講義の様子

私たちは自分の生まれ育った町に愛着を持ち、自然とそこで過ごした生活や習慣に親しみを持っています。だからこそ、自分の意図とは関係なく他の土地に引っ越すことになったときには（たとえば避難などで）、戸惑いを感じてしまいます。

福島県では、各地域がそれぞれいろいろな文化を持っています。このような地域の多様性に見合った保健活動について、社会心理学の観点から学びました。



▲ランチミーティング形式の出前講座の様子



▲演習課題についてグループで話し合いました

講師紹介



福島県立医科大学
医学部 健康リスクコミュニケーション学講座
日本学術振興会 特別研究員 小林智之

- ・ 略歴：同志社大学大学院 心理学研究科 博士後期課程修了（心理学博士）。その後、福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座の特別研究員を経て、現在は日本学術振興会の特別研究員。
- ・ 専門領域：社会心理学、社会的認知、集団間関係

演習の様子

演習では、社会心理学の観点から紹介された2つの地域アプローチ「**みんな同じだよなアプローチ**」と「**みんなで力を合わせようアプローチ**」を使って、「避難により、様々な地域の人が集まった町で交流を深めるためのイベント」についてグループごとに話し合いました。

みんな同じだよなアプローチ

- ・子育て、健康づくりのイベント
- ・運動会、100歳体操
- ・県民全体の健康フェスタ
- ・県産食材を使った減塩料理
- ・昔遊び

みんなで力を合わせようアプローチ

- ・町内会、見回り防犯対策
- ・桜や農作物を育てる
- ・地域食の持ち寄りパーティー
- ・力を合わせて餅つき大会
- ・綿花づくり

▲グループワークでは、それぞれのアプローチについていろいろなイベントのアイデアがありました

* アンケート集計結果

参加者は13名、アンケート回収は13名でした。

評価項目	そう思う*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	85%
時間配分は適切だった	77%
進行は適切だった	85%
講義について	
講義内容が理解できた	85%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	77%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	77%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	77%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	31%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	31%

* 復習ポイント *

- ・ Who am Iテストとは？
- ・ 地域性に基づく集団行動
- ・ 交流を深めるためのアプローチとは？

編集後記

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

今回の出前講座では、保健活動を行ううえで、重要な地域アプローチの視点を学びました。地域住民の皆さんの交流を深めるためのアプローチは保健活動において重要ですので、私も心がけたいと思います。（吉田）